

平成29年3月時点の行政が検討した結果や進捗状況等の回答を下記のとおり報告します。

◆学校改築計画

提言	検討結果・進捗状況等の回答
<p>統廃合の賛否や小中一貫校の導入、地域コミュニティに与える影響など様々な意見や要望が出されました。学校改築計画策定に当たっては、子どもたちや地域に及ぼす影響とメリット、デメリットなどの調査・研究を行い、また、今後の児童生徒数の推移と建物の劣化状況、財政的な裏付けや維持費などの基礎的なデータと合わせ、調査結果を公表し、市民に判断材料を示した上で、合意形成に努めること。</p> <p>また、現在までに施設の耐震化や改築を行っているが二重投資とならないよう配慮が必要である。</p>	<p>昨年10月5日に開催した、「長期学校改築計画に関する市民学習会」での結果を踏まえ、同年12月に「小諸市長期学校改築計画検討会」を設置し、本年1月より検討を開始いたしました。</p> <p>この検討会は、計画策定の議論のきっかけとする、計画の「たたき台」をつくるための検討組織であり、随時、検討状況を市民の皆様へお知らせするとともに、検討会と市民の皆様との意見交換の場などを設けながら検討を重ね、来年1月を目途に「たたき台」を提言していただく予定としています。</p> <p>検討の過程では、議会からの提言書でご指摘をいただいた、「統廃合」「小中一貫」「地域コミュニティ」など、あらゆる可能性を排除せず検討し、「児童・生徒数の推移」や「建物の老朽化」「財政面」など踏まえた「子どもたちにとって望ましい学校のあり方」を最優先で検討していきます。</p> <p>なお、この「たたき台」が示されたのちは、「たたき台」内容を吟味したうえで、市民合意に向けた手法、スケジュール等の検討を行い、概ね1年間で「計画策定」につなげていきたいと考えています。</p>

◇学校改築計画以外で出された課題について

提言	検討結果・進捗状況等の回答
<p>1 児童生徒の安全確保</p> <p>(1) 児童・生徒の登下校における安全確保のため、通学路へのグリーンベルトの新設と塗り直し、また、ヘルメットの着用等について検討の必要がある。</p> <p>(2) 各区等で実施している見守り隊について、地域での取り組みに温度差があるため、市全体での活発な取り組みを促す必要がある。</p>	<p>新入学児童の「通学用ヘルメット」は、小諸ライオンズクラブ様及び小諸ロータリークラブ様のお力添えにより、平成29年度より導入いたします。また、グリーンベルトにつきましては、道路管理者、警察と協議し、通学路の安全確保に努めてまいります。</p> <p>「見守り隊」の活動は、「地域総ぐるみで子どもを育む取組み」として、大変心強い自発的な活動です。この地域発の取り組みを大切にしながら、コミュニティースクールの取組みなどと併せて、引き続き推進してまいります。</p>
<p>2 学校施設及び学習環境の向上</p> <p>備品（机、椅子、テレビ等）の計画的な更新を行うとともに、ロッカーが狭く収納に支障をきたしているため、改修を行う必要がある。</p>	<p>本年度、全小中学校の授業を行う教室に地デジ対応の大型テレビを配置し、校内放送も行える仕組みを構築します。大型テレビの導入については、ICT教育環境の基礎的な部分でしたが、企業の皆様からのお力添えもあり、整えることができる運びとなりました。その他教育備品や設備等については、引き続き整備に努めてまいります。</p>
<p>3 非常用備蓄品及び避難場所の整備</p> <p>(1) 災害時の避難場所に指定されている学校への備蓄品を充実するとともに、校舎外の備蓄品倉庫の設置も必要である。</p> <p>(2) 各地域の公園を多目的公園（子どもや高齢者が安心して過ごせる場所・避難場所）として整備するよう研究していく必要がある。</p>	<p>学校での災害用備蓄品等の充実に関しては、防災担当課と検討してまいります。</p>
<p>4 携帯電話端末やインターネットの危険性の啓発</p> <p>スマートフォンや携帯ゲームを長時間使用することによる弊害に対し、利用に当たってのルールづくりを行うとともに、モラルやマナーについて啓発を強化する必要がある。</p>	<p>子どもたちが情報通信手段と正しく向き合い、情報モラル等を身に付けられるようにするためには、学校での指導以上に、家庭の指導が必要です。小諸市PTA連合会とも連携して進めていくことが重要であると考えています。</p>

◆公共交通

提言	検討結果・進捗状況等の回答
<p>1 利用周知</p> <p>利用方法が周知されていない人の中には、利用したいが仕組みが分からない人と公共交通を利用する必要のない人の2種類がある。</p> <p>利用したいが仕組みがわからない人には、理解するまで丁寧に寄り添った説明が必要である。</p> <p>また、現在、公共交通を利用する必要のない人にも、将来、公共交通が必要になる可能性もあることから、事前に登録してもらうようきめ細かな粘り強いPRが必要である。</p>	<p>代表質問でもご質問をいただき市長より答弁いたしました。予約制相乗りタクシー「こもろ愛のりくん」の運行開始から1年半を経過し、この間、各地区の高齢者クラブの集まりやふれあい給食などの機会をとらえ、小さな説明会等をこまめに実施し、利用登録者を増やす取り組みを推進してまいりました。</p> <p>2月末現在の登録者数は4,161人に、世帯数は2,130世帯となり、1日当たりの利用者数も、当初の平成27年10月には59人だったものが、平成29年2月には168.3人と2.85倍になっております。</p> <p>今後も、引き続き、利用登録者を増やす取り組みについては、小規模な高齢者の集まりにあわせた説明会の開催等を中心に、ご利用いただけるような丁寧な説明に努めてまいります。</p> <p>また、広報等で広くPRしてまいります。</p>
提言	検討結果・進捗状況等の回答
<p>2 利用料金</p> <p>今までのすみれ号と比較して高いと感じている人と利用者の中には利便性の向上により安いと感じている人がいる。</p> <p>高いと感じている人には、料金設定の根拠を説明し理解を得ると共に、さらに利便性を高め、料金が妥当であると感じてもらふ必要がある。</p> <p>また、予約に掛かる電話代をフリーダイヤルにする等、利用者の負担の軽減を図ることも必要である。</p>	<p>現在の乗車料金は、朝夕の定時定路線バス「愛のりすみれ号」が1回200円、デマンドタクシー「こもろ愛のりくん」が1回300円となっています。また、小・中学生や身体障害者手帳・精神保健福祉手帳・療育手帳所持の方については、こもろ愛のりくん、愛のりすみれ号ともに100円としております。</p> <p>デマンド型運行をしている県内の自治体と比較しても半数の自治体で、1回の利用料金が300円又は300円以上となっています。現状では、こもろ愛のりくんの利用料金300円は妥当であると判断しております。</p> <p>今後、持続可能な公共交通システムの構築に向けては、受益者である利用者の応分の負担をお願いすることも重要な要素でありますので、金額の設定に関しては、今後、現在の運行システムの安定的運行の中で要する経費を見つつ、受益者の負担割合をどう設定するかも検討課題の一つと考えているところでございます。</p>

	<p>また、フリーダイヤルの導入に関しましては、これまでもご意見をいただいておりますが、現行の 25-8008 のコールセンターの電話番号が定着してきていることもあり、状況を見ておりましたが、現行の番号は既に使われています。利用者の利便性を考えれば必要性は高く、現在、費用面の調査及び電話番号の検討等を行っているところです。</p>
<p>提言</p>	<p>検討結果・進捗状況等の回答</p>
<p>3 利便性向上</p> <p>① 定時定路線バス</p> <p>現在の運行路線、ダイヤ及び停留所がニーズに合っていないことから、愛のりくん利用者、未利用者共にこもろすみれ号の復活を望む声が多くある。また、定時定路線バスを登下校に利用したくても利用できないとの声が多い。</p> <p>これらを解決するには、車両台数を増やし対応をする必要がある。また、市内施設を周遊する循環バスの検討も必要である。</p>	<p>3の利便性の向上につきましては、平成 27 年 10 月に「こもろ愛のりくん」を導入して以降、これまでもご利用者や市民の皆様のご意見を伺い、運行の見直しや改善を図ってきております。</p> <p>なお、登下校に利用したくても利用できないという声については、教育上の観点から通学は徒歩か自転車としていることもあります。</p> <p>また、現状ではスクールバス化は困難であります。</p> <p>そうした中、①の定時定路線型バス「愛のりすみれ号」についても、しなの鉄道や JR 八ヶ岳高原線との連結や、小中学校の下校、部活帰り等にできる限り対応できるよう、ルートの変更や乗降場所の追加などを行ってきました。</p> <p>この 4 月からの改正でも、御牧ヶ原線では、登下校に利用する児童生徒数が多いことから、運行車両を、10 人乗りから 29 人乗りマイクロバスに変更してまいります。</p> <p>定時定路線バスは、以前の「こもろすみれ号」が市内を 11 路線に分け、市内全域で運行していたものを、デマンドタクシー「こもろ愛のりくん」の導入に併せ、朝夕に限定し、かつ路線も利用度の高かった 7 路線に絞り運行をしてきているところです。しかし、その中でも、この 4 月から、ご利用者が極端に少なかった御影線を廃止させていただき、6 路線での運行とさせていただきます。</p> <p>定時定路線バスの運行は、デマンドタクシー「こもろ愛のりくん」と同じ車両を使用し、朝夕に限った通勤通学者向けに限定した運行で</p>

	<p>す。定時定路線バス用に別の新たな車両を設けたり、新たな路線を増やすということは、利用者数の実績からも現段階では、難しいと考えており、現行の運行システムを継続していく考えでおります。</p> <p>また、市内施設を周遊する循環バスについては、4の「観光対応等バス」の項目で回答させていただきます。</p>
提言	検討結果・進捗状況等の回答
<p>3 利便性向上</p> <p>②予約制相乗りタクシー</p> <p>目的地への直行やドア・ツー・ドアの完全実施等の希望の声がある。これらを解決するには、さらに乗降場所のニーズを調査し、整骨院や接骨院など高齢者の希望する場所を増やす必要がある。また、居住地から同一エリア外にあるスーパーや医者等に直接行けるような路線の検討及び運転手の再教育も必要である。</p>	<p>「こもろ愛のりくん」の運行に関してのご提言でございますが、ドア・ツー・ドアの完全実施等の要望については、民間の交通事業者等との連携も含めて研究して参ります。</p> <p>持ち込める荷物の大きさには規定がありますが、柔軟な対応をしている現状もあります。</p> <p>片道の運行時間を30分と設定していますので、共通エリアを除き同一エリア外へ直接行くことは困難です。一部、道路沿いの乗降場所については、特記として他のエリアからも直接乗降できるように設定しています。</p> <p>ご利用者によっては、タクシーと同様、希望する場所まで行って欲しいというご意見がございますが、この点については、実現は難しいと考えております。なお、昨年10月の改正で、乗降場所を市内177箇所に増やし、ご利用者の利便性の確保に努めているところでございます。</p> <p>運転手のマナー等については、現在も、ドライバー会議等を開催し、接客の向上を図っており、また、安全・危機管理研修等も実施いただいておりますが、今回のご提言を受け、受託事業者を含め運行事業者へご意見の内容を伝え、改善を求めたところでございます。</p>
提言	検討結果・進捗状況等の回答
<p>4 観光対応等バス</p> <p>バスを有効利用するために次の検討を求めます。</p> <p>①土日に観光拠点を周遊する循環バスの検討を行うこと。</p>	<p>市を訪れた観光客の交通手段がない現状については、市長の未来プロジェクトでも公約に掲げており、交通手段の確保は大きな課題と認識しております。平成28年度におきまして、庁内でも商工観光課と協議の場を設け、市内の</p>

<p>②イベント開催時におけるシャトルバスの検討を行うこと。</p>	<p>主な観光拠点を循環するバスの検討を進めてきました。</p> <p>しかし、観光拠点循環バスについては、平成9年から平成18年まで実施していた「観光地めぐりシャトル」の結果も含めて、平成28年11月に設立し、平成29年4月から営業を開始する、一般社団法人こもろ観光局と協議しながら、観光二次交通について研究して参りたいと考えています。</p>
<p>提言</p>	<p>検討結果・進捗状況等の回答</p>
<p>5 公共交通事業に対する予算</p> <p>市民からは利便性の向上が多く求められており、それらを実現するためには費用の増大は避けられない。これを利用料金に転嫁するのか、税金を投入するのか、いずれにしても公共交通事業を永続的に持続させるための積算根拠を市民に示し、説明責任を果たし理解を得る必要がある。</p>	<p>代表質問でもご質問をいただき市長より答弁いたしました。持続可能な公共交通を確保・維持していくためには、経営の合理化に向け、「収益を増やす方策」と「経費を削減する方策」を検討していく必要があります。</p> <p>現在もご利用者や市民の皆様のご意見を反映し、利便性の向上に向けた見直しや改善を図ってきておりますが、3の利便性の向上でもご回答しましたが、すべての市民ニーズに答える運行時間の拡大やそれに伴う運行車両の追加は、市の財政状況上も難しいと考えており、そうした観点からも、地域公共交通として行政が担う役割等も見据えていく必要があると認識しています。</p>